

感染症発生動向調査情報に基づく埼玉県の患者発生状況

- 2016年 -

尾関由姫恵 猪野翔一郎 棚倉雄一郎 山田さゆり 細野真弓 山田文也 岸本剛

Infectious disease surveillance reports in Saitama Pref. in 2016

Yukie Ozeki, Shoichiro Ino, Yuichiro Tanakura, Sayuri Yamada, Mayumi Hosono, Fumiya Yamada, and Tsuyoshi Kishimoto

はじめに

感染症発生動向調査事業は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」の第12条から16条に基づく全国サーベイランスである。一類から五類感染症、新感染症、指定感染症及び新型インフルエンザ等感染症の患者を診断した医師からの届出を受け、感染症の地域的な流行の実態を早期かつ的確に把握し、その情報を速やかに還元するものである。当所では2004年から「感染症発生動向調査実施要綱」に基づく基幹感染症情報センターとして、埼玉県における感染症の発生についての情報収集、解析及び提供を行っている。

2016年の発生動向調査では、感染症法の改正により新たにジカウイルス感染症が四類感染症に追加された¹⁾。

対象および方法

感染症法に基づく届出対象疾患を表 1-1, 2 に示す²⁾。埼玉県基幹情報センターとしてさいたま市、川越市及び越谷市を含む全県域から収集した届出を対象とした。届出数の集計には感染症サーベイランスシステム (National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease: NESID) の感染症発生動向調査システムに登録された2017年2月現在の確定数をダウンロードして用いた。なお、全数把握対象疾患は診断日が2016年1月1日から2016年12月31日に属する届出を、定点把握対象疾患のうち、週単位報告対象疾患は2016年第1週(2016年1月4日～10日)から第52週(2016年12月26日～2017年1月1日)まで、月単位報告対象疾患は2016年1月から12月までの報告を対象とした。年齢別の集計は、全数把握対象疾患では10歳毎の階級に分け、定点把握対象疾患では感染症発生動向調査事業の報告書式の年齢階級を適用した。

結果

1. 全数把握対象疾患の発生状況

一類から三類感染症の届出数を表 2-1 に、四類感染症を表 2-2 に、五類全数把握対象疾患を表 2-3 にそれぞれ示し

た。また、調査期間中に新感染症、指定感染症及び新型インフルエンザ等感染症に指定された疾患はなかった。

(1) 一類から三類感染症

一類感染症は疑似症を含め届出はなかった。二類感染症の結核は男831例、女552例の計1,383例の届出があった。性比は男が女の1.5倍で、男は10歳未満から90歳代に分布し最も多かった階級は70歳代、女は10歳未満から100歳代に分布し最も多かった階級は80歳代であった。類型別の届出数は患者938例、無症状病原体保有者(潜在性結核感染症)432例、疑似症9例、感染症死亡者の死体3例、感染症死亡疑い者の死体1例であった。患者の届出は2012年以降1,000例を下回っている(2012年患者995例、2013年945例、2014年929例、2015例902例)。

三類感染症は、細菌性赤痢11例、腸管出血性大腸菌感染症174例、腸チフス2例の計187例の届出があった。

1) 細菌性赤痢

細菌性赤痢は男5例、女6例の計11例の届出があり、前年より増加した。症例は20歳代以上に分布した。類型別では患者10例、無症状病原体保有者1例で、いずれも診断方法は分離・同定による病原体の検出で、血清型は9例から *sonnei*、2例から *flexneri* が検出された。推定感染地域は国外が7例(インドネシア3例、インド、朝鮮民主主義人民共和国、イラン、モロッコ各1例)、国内が4例であった。国内感染例は前年に引き続き報告された。

2) 腸管出血性大腸菌感染症(*Escherichia albertii* 感染症の1例を含む)

腸管出血性大腸菌感染症は男80例、女94例の計174例の届出があった。症例は10歳未満から90歳代に分布し、10歳未満が59例と最も多く、次いで20歳代が31例、10歳代が29例であった。届出は6月から増加し、11月まで多い状況が続いた。最も届出が多かったのは例年同様に8月であったが、9月及び10月は過去5年に比べ多く、それぞれ28例の届出があった。類型別では、患者108例、無症状病原体保有者66例であった。腸管出血性大腸菌(*Escherichia coli*)感染症の173例のうち大腸菌が分離された172例の0血清型は、0157が106例と最も多く、次いで026の53例であった。0157と026の全体に占める割合はそれぞれ61.6%と30.8%で、前年と同様であった。その他

表 1-1 感染症法における届出対象疾患

感染症類型	疾患名	届出の可否			届出方法		
		患者	疑似症*	無症状病原体保有者	定点種別	時期	内容**
一類	エボラ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	クリミア・コンゴ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	痘そう	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	南米出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ペスト	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	マールブルグ病	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ラッサ熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
二類	急性灰白髄炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	結核	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ジフテリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H5N1)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
鳥インフルエンザ(H7N9)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	
三類	コレラ	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	細菌性赤痢	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腸管出血性大腸菌感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腸チフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	パラチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
四類	E型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	A型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	エキノコックス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	黄熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	オウム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	オムスク出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	回帰熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	キャサナル森林病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	Q熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	狂犬病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	コクシジオイデス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	サル痘	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ジカウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	重症熱性血小板減少症候群	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腎症候性出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	西部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ダニ媒介性脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	炭疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	チクングニア熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	つつが虫病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	デング熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	東部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ニパウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	日本紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	日本脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ハンタウイルス肺症候群	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	Bウイルス病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ブルセラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ベネズエラウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ヘンドラウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	発しんチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ボツリヌス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	マラリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	野兔病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ライム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	リッサウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	リフトバレー熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
類鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
レジオネラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
レプトスピラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
ロッキー山紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	

*疑似症 明らかに当該感染症の症状を有しているが、病原体診断の結果が未定の者を指す。但し、鳥インフルエンザはH5亜型、H7亜型ウイルスが検出された患者
 **内容 a: 氏名、年齢、性別、職業、住所、所在地、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、その他(保護者の住所氏名)

表 1-2 感染症法における届出対象疾患

感染症類型	疾患名	届出の可否			届出方法		
		患者	疑似症*	無症状病原体保有者	定点種別	時期	内容**
五類	アメーバ赤痢	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	RSウイルス感染症	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	咽頭結膜熱	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	○	×	×	内科 小児科	次の月曜	c1
	インフルエンザ(入院)	○	×	×	基幹	次の月曜	c1
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	感染性胃腸炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	急性出血性結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラ馬脳炎及びリストバレー熱を除く)	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	クリプトスポリジウム症	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	後天性免疫不全症候群	○	×	○	(全数)	7日以内	b
	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	侵襲性肺炎球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	×	×	(全数)	直ちに	a
	ジアルジア症	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	水痘	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	水痘(入院例)	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	性器クラミジア感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	性器ヘルペスウイルス感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	尖圭コンジローマ	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	先天性風しん症候群	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	手足口病	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	伝染性紅斑	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	突発性発しん	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	梅毒	○	×	○	(全数)	7日以内	b
	播種性クリプトコックス症	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	破傷風	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	百日咳	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	風しん	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2
	ヘルパンギーナ	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	マイコプラズマ肺炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	麻しん	○	×	×	(全数)	直ちに	a
	無菌性髄膜炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2
	流行性角結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1
流行性耳下腺炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	
淋菌感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1	

*疑似症 明らかに当該感染症の症状を有しているが、病原体診断の結果が未定の者を指す

**内容 a: 氏名、年齢、性別、職業、住所、所在地、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、その他(保護者の住所氏名)

b: 年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域

c1: 年齢、性別

c2: 年齢、性別、原因病原体の名称、検査方法

の血清型は少数で、0121が4例、0111が3例、08、076、0128が各1例、型別不能(OUT)が3例であった。溶血性尿毒症症候群(HUS)患者は、6月に女10歳代1例、8月に10歳未満の男及び女各1例の計3例の発症が確認され、前年の3例と同数であった。なお、8月の1例から分離された病原体は*Escherichia albertii*であり、ペロ毒素(VT2)産生が認められ、三類感染症として届出された。

3) 腸チフス

腸チフスは40歳代及び60歳代の男2例の届出があった。類型はいずれも患者、診断方法は1例が血液、1例が尿からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域はインド、南スーダンであった。

表 2-1 一類、二類、三類感染症の届出数

	疾患名	埼玉県		
		2016年	2015年	2014年
一類	エボラ出血熱	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0
	痘そう	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0
	ペスト	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0
	結核	1383	1273	1392
	ジフテリア	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0
	中東呼吸器症候群★	0	0	-
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)★	0	0	-
三類	コレラ	0	0	0
	細菌性赤痢	11	6	2
	腸管出血性大腸菌感染症	174	167	265
	腸チフス	2	1	2
	パラチフス	0	1	1

★ 指定感染症であった中東呼吸器症候群及び鳥インフルエンザ(H7N9)は、2015年1月21日から二類感染症に移行

(2) 四類感染症

四類感染症は、E型肝炎15例、A型肝炎6例、チクングニア熱1例、つつが虫病1例、デング熱13例、レジオネラ症89例の計125例の届出があった。

1) E型肝炎

E型肝炎は男11例、女4例の計15例の届出があった。症例は30歳代から80歳代に分布し、60歳代の5例が最も多かった。届出は1月が多く、1月から3月に全体の半数である8例の届出があったが、患者間の関連性は認められなかった。いずれも類型は患者、診断方法は血清IgA抗体の検出であった。推定感染経路は経口感染9例、不明6例で、推定感染地域は全て国内であった。

2) A型肝炎

A型肝炎は男3例、女3例の計6例の届出があった。症例は40歳代及び60歳代が各2例、20歳代及び70歳代が各1例であった。届出は散発的で、患者間の関連性は認められなかった。診断方法は血清IgM抗体の検出が

4例、血清IgM抗体の検出及びPCR法による病原体遺伝子の検出が2例であった。推定感染経路は経口感染が4例、不明が2例であった。推定感染地域は国内4例、国外2例(フィリピン、インド)であった。

3) チクングニア熱

チクングニア熱は9月に30歳代の女1例の届出があった。診断方法は血液からのPCR法による病原体遺伝子の検出で、推定感染地域はインドであった。

4) つつが虫病

つつが虫病は11月に80歳代の女1例の届出があった。診断方法はIgM抗体の検出及びペア血清での抗体価の有意上昇、推定感染地域は国内で、ダニからの感染であった。

5) デング熱

デング熱は男6例、女7例の計13例の届出があった。症例は10歳未満から40歳代に分布し、40歳代が5例と最も多かった。病型別では、全例がデング熱で、デング出血熱の届出はなかった。診断方法は、NS1抗原の検出が8例、PCR法による病原体遺伝子の検出が1例、ペア血清での血清IgG抗体の検出が1例、複数の検査が実施されていたものとして、NS1抗原の検出及びPCR法による病原体遺伝子の検出が3例であった。推定感染地域は、いずれも国外で、インドネシア5例、フィリピン3例、タイ2例、サモア、バングラデシュ、インドが各1例であった。

6) レジオネラ症

レジオネラ症は男71例、女18例の計89例の届出があった。性比は男が女の3.9倍で、男は40歳代から90歳代に分布し、特に50歳代、60歳代及び70歳代が多かった。女の届出は、20歳代の1例を除くと17例は60歳以上であった。病型別では、肺炎型が79例、ポンティアック熱型が8例、無症状病原体保有者2例で、肺炎型が全体に占める割合は88.8%で、前年の98.9%に比べ10.1ポイント減少した。年間を通して届出があり、月別の届出数で最も多かったのは7月の15例、次いで8月の12例であった。診断方法は、酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が80例、分離同定による病原体の検出が2例、複数の検査が実施されていたものとして、酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出及び分離同定による病原体の検出が6例、分離同定による病原体の検出及び検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出が1例であった。推定感染地域は、国内87例、国外2例で、国内感染例のうち県内は58例であった。集団感染は認められなかった。

(3) 五類感染症

五類感染症の全数把握対象疾患は、アメーバ赤痢44例、ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)7例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症51例、急性脳炎38例、クロイツフェルト・ヤコブ病5例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症21例、後天性免疫不全症候群40例、ジアル

表 2-2 四類感染症の届出数

疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
	2016年	2015年	2014年		2016年	2015年	2014年
E型肝炎	15	7	12	東部ウマ脳炎	0	0	0
ウエストナイル熱	0	0	0	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)	0	0	0
A型肝炎	6	16	8	ニパウイルス感染症	0	0	0
エキノкокクス症	0	0	0	日本紅斑熱	0	0	0
黄熱	0	0	0	日本脳炎	0	0	0
オウム病	0	1	0	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0
オムスク出血熱	0	0	0	Bウイルス病	0	0	0
回帰熱	0	0	0	鼻疽	0	0	0
キャサナル森林病	0	0	0	ブルセラ症	0	0	1
Q熱	0	0	0	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0
狂犬病	0	0	0	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0
コクシジオイデス症	0	0	0	発しんチフス	0	0	0
サル痘	0	0	0	ポツリヌス症	0	0	0
ジカウイルス感染症★	0	-	-	マラリア	0	1	3
重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	野兔病	0	0	0
腎症候性出血熱	0	0	0	ライム病	0	0	1
西部ウマ脳炎	0	0	0	リッサウイルス感染症	0	0	0
ダニ媒介性脳炎	0	0	0	リフトバレー熱	0	0	0
炭疽	0	0	0	類鼻疽	0	0	0
チクングニア熱	1	1	0	レジオネラ症	89	90	55
つつが虫病	1	0	1	レプトスピラ症	0	0	0
デング熱	13	13	14	ロッキー山紅斑熱	0	0	0

★ ジカウイルス感染症は2016年2月15日から 届出の対象

ジア症 1例, 侵襲性インフルエンザ菌感染症 9例, 侵襲性髄膜炎菌感染症 2例, 侵襲性肺炎球菌感染症 108例, 水痘(入院例)9例, 梅毒 191例, 播種性クリプトコックス症 8例, 破傷風 4例, バンコマイシン耐性腸球菌感染症 9例, 風しん 4例, 麻しん 8例, 薬剤耐性アシネトバクター感染症 7例の計 566例の届出があった。

1) アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は男 39例, 女 5例の計 44例の届出があった。性比は男が女の 7.8倍で, 男は 20歳代から 80歳代に分布し, 40歳代の 15例が最も多かった。女は, 40歳代 2例, 20歳代, 30歳代及び 70歳代が各 1例であった。病型別では, 腸管アメーバ症 38例, 腸管外アメーバ症 4例, 腸管及び腸管外アメーバ症 2例であった。診断方法は, 腸管アメーバ症で鏡検による病原体の検出 26例, 血清抗体の検出 4例, 鏡検による病原体の検出及び血清抗体の検出が 7例, 鏡検による病原体の検出及び ELISA 法による病原体抗原の検出が 1例であった。腸管外アメーバ症は, 血清抗体の検出 4例, 腸管及び腸管外アメーバ症では, 鏡検による病原体の検出, 血清抗体の検出が各 1例であった。推定感染経路は, 経口感染 12例, 性的接触 12例, その他 1例, 不明 19例で, 性的接触の内訳は異性間性的接触 9例, 同性間性的接触 1例, 異性同性不明 2例であった。推定感染地域は, 国内 38例, 国外 5例(インドネシア 2例, タイ 2例, アメリカ合衆国 1例), 不明 1例であった。

2) ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)

ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)は, B型肝炎 5例, C型肝炎 2例の計 7例の届出があった。B型肝炎は男 4

例, 女 1例で, 症例は 20歳代 3例, 30歳代及び 50歳代が各 1例であった。診断方法は, 全て血清 IgM 抗体(HBc 抗体)の検出であった。推定感染経路は, 4例が性的接触で, その内訳は, 異性間性的接触 2例, 同性間性的接触 1例, 異性同性不明 1例で, 感染経路不明が 1例あった。また, 推定感染地域は全て国内であった。C型肝炎は 20歳代及び 70歳代の男 2例の届出があった。診断方法は, いずれもペア血清での HCV 抗体の検出であった。推定感染経路は, 前者が不明, 後者が同性間性的接触, 推定感染地域は両者ともに国内であった。

3) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は男 33例, 女 18例の計 51例の届出があった。症例は 70歳代の 16例, 80歳代の 18例が多く, この 2つの年齢階級で全体の 66.7%を占めた。症状は尿路感染症の 18例が最も多く, 次いで菌血症・敗血症が 16例, 肺炎, 胆嚢炎・胆管炎が各 7例, 腸炎・腹膜炎が 5例であった。検査検体は, 血液及び尿が多く各 16検体であった。病因菌は, *Enterobacter aerogenes* が 14例, *Enterobacter cloacae* が 11例, *Enterobacter* 属が 3例, *Klebsiella pneumoniae* が 9例, *Klebsiella oxytoca* が 2例, *Klebsiella* 属が 1例で, 他の細菌では *Citrobacter* 属及び *Serratia* 属が各 4例, *Escherichia* 属が 2例, *Morganella* 属が 1例であった。

4) 急性脳炎

急性脳炎は男 17例, 女 21例の計 38例の届出があり, 前年より増加した。症例は 10歳未満から 80歳代に分布し, 10歳未満の 18例が最も多く, 次いで 10歳代の 6例

であった。届出は全ての月にあり、インフルエンザウイルスは1月から3月の患者14例から検出された。その他の病原体としてヘルペスウイルスが9例、コクサッキーウイルスが2例、アデノウイルス、B群溶血性レンサ球菌及び肺炎球菌が各1例から検出された。残りの11例の病原体は特定されていなかった。推定感染地域は、いずれも国内であった。

表 2-3 五類感染症の届出数(全数把握)

疾患名	埼玉県		
	2016年	2015年	2014年
ア메バ赤痢	44	30	41
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	7	6	11
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症★	51	40	3
急性脳炎	38	28	27
クリプトスポリジウム症	0	0	1
クロイツフェルト・ヤコブ病	5	10	6
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	21	12	10
後天性免疫不全症候群	40	35	45
ジアルジア症	1	4	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症	9	14	10
侵襲性髄膜炎菌感染症	2	2	2
侵襲性肺炎球菌感染症	108	84	76
水痘(入院例)★	9	10	3
先天性風しん症候群	0	0	0
梅毒	191	108	51
播種性クリプトコックス症★	8	7	4
破傷風	4	2	5
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	9	9	6
風しん	4	8	9
麻しん	8	2	27
薬剤耐性アシネトバクター感染症★	7	1	2

★ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘(入院例)、播種性クリプトコックス症および薬剤耐性アシネトバクター感染症は2014年9月19日から届出の対象

5) クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD)

クロイツフェルト・ヤコブ病は男2例、女3例の計5例の届出があった。症例は60歳代から80歳代に分布した。病型は全て古典型CJDで、診断の確実度では、ほぼ確実が3例、疑い及び確実が各1例であった。

6) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は男13例、女8例の計21例の届出があり、前年より増加した。年齢階級別で多かったのは、80歳代、70歳代が各5例、50歳代が4例、60歳代が3例の順であった。診断方法は全例が分離同定による病原体の検出で、血清群はA群が11例、G群が6例、B群が4例であった。推定される感染経路は飛沫感染が5例、創傷感染が5例、垂直感染が1例、不明10例で、推定感染地域は全て国内であった。

7) 後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は男40例の届出があった。女の届出はなかった。症例は20歳代から60歳代に分布し、20歳代の17例が最も多く、次いで30歳代の12例の順であった。病型別では無症状病原体保有者が20例、AIDSが15例、その他が5例であった。病型別の年齢分布では、無症状病原体保有者は20歳代が半数を占めていた

が、AIDSでは20歳代、30歳代、40歳代及び60歳代がほぼ均等に分布していた。AIDS15例の指標疾患は、ニューモシスティス肺炎が8例、カンジダ症(食道、気管、気管支、肺)が5例、カポジ肉腫3例、サイトメガロウイルス感染症が2例、クリプトコックス症(肺以外)、活動性結核、反復性肺炎が各1例であった(重複あり)。推定される感染経路は性的接触が34例、不明が6例であった。また、性的接触の内訳は同性間性的接触が24例、異性間性的接触が8例、異性・同性間性的接触が2例であった。

8) ジアルジア症

ジアルジア症は50歳代の男1例の届出があった。診断方法は鏡検による病原体の検出、推定感染経路は経口感染、推定感染地域は国内であった。

9) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

侵襲性インフルエンザ菌感染症は男5例、女4例の計9例の届出があった。症例は70歳代及び80歳代が各3例と多かった。診断方法はいずれも血液からの分離同定による病原体の検出で、ヒブワクチン接種歴は無し2例、不明7例であった。推定感染地域はいずれも国内であった。

10) 侵襲性髄膜炎菌感染症

侵襲性髄膜炎菌感染症は50歳代の男1例、20歳代の女1例の計2例の届出があった。いずれも、診断方法は血液からの分離同定による病原体の検出で、血清群は不明(未実施)、推定感染地域は国内であった。

11) 侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症は男65例、女43例の計108例の届出があり、前年より増加した。性比は男が女の1.5倍で、男は60歳代の20例が最も多く、次いで70歳代の13例、80歳代の10例の順であった。女は70歳代の12例が最も多かった。10歳未満は男が7例、女が10例であった。診断方法は、分離同定による病原体の検出が95例、病原体抗原の検出が2例で、複数の検査が実施されていたものとして、分離同定による病原体の検出及び病原体抗原の検出が6例、分離同定による病原体の検出及び検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出が5例であった。侵襲性を示す症状では、菌血症が最も多く86例で肺炎等の別の症状との合併が多く、菌血症のみの発症は2例であった。予防接種歴は、有りが20例で10歳未満が13例、60歳代が3例、70歳代及び80歳以上が各2例、無しは52例、不明36例で、推定感染地域は107例が国内、1例が不明であった。

12) 水痘(入院例)

水痘(入院例)は男6例、女3例の計9例の届出があった。症例は10歳代から50歳代に分布し、10歳未満の届出はなかった。病型別では検査診断例が2例、臨床診断例が7例で、検査診断例の診断方法は、血清IgM抗体の検出及びペア血清での抗体価の有意上昇が1例、血清IgM抗体の検出が1例であった。推定感染経路は、水痘

患者との接触が4例、不明が5例であった。

13) 梅毒

梅毒は男127例、女64例の計191例の届出があり、前年より大きく増加した。性比は男が女の2.0倍で、男は10歳未満から80歳代に分布し、特に20歳代、30歳代及び40歳代が多かった。女は10歳代から90歳代に分布し、20歳代が32例と最も多かった。病型別では、男は早期顕症梅毒(I期)が68例、早期顕症梅毒(II期)が29例、晩期顕症梅毒が6例、先天梅毒が1例、無症状病原体保有者が23例で、女は早期顕症梅毒(I期)が12例、早期顕症梅毒(II期)が28例、晩期顕症梅毒が2例、無症状病原体保有者が22例で、男女ともに顕症梅毒が無症状病原体保有者の届出数を大きく上回った。また、前年との比較では、男の早期顕症梅毒(II期)及び晩期顕症梅毒、女の早期顕症梅毒(I期)及び晩期顕症梅毒の割合が増加した。推定感染経路は、男で性行為感染が116例、母子感染(胎内)が1例、不明が10例、女で性行為感染が58例、母子感染が1例、不明が5例であった。性行為感染の内訳で異性間性的接触は男の63.8%、女の70.3%を占めた。また、推定感染地域は国内が187例、国外が4例であった。

14) 播種性クリプトコックス症

播種性クリプトコックス症は男5例、女3例の計8例の届出があった。症例は20歳代から80歳代に分布した。診断方法は、全例で血液又は髄液からの分離同定による病原体の検出が行われていたほか、病理組織学的診断が3例、ラテックス凝集法による莢膜抗原の検出が3例で行われていた。感染原因・感染経路は、免疫不全を来す基礎疾患又は症状は、AIDSが1例、免疫抑制剤投与が1例、術後の免疫力低下が1例、詳細不明が1例であった。鳥類の糞等との接触が疑われた例は3例、感染経路不明が1例であった。

15) 破傷風

破傷風は男2例、女2例の計4例の届出があった。症例は70歳代及び80歳代に分布した。いずれも診断方法は臨床決定、破傷風含有ワクチンの接種歴は有り、無しが各1例、不明が2例であった。感染経路は創傷感染が2例、不明が2例で、推定感染地域はいずれも国内であった。

16) バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は男2例、女7例の計9例の届出があった。症例は60歳代から90歳代に分布した。診断方法は、全例が分離同定による病原体の検出で、MIC(Minimum inhibitory concentration)測定が行われていた。病原体は6例から *Enterococcus faecalis*、2例から *Enterococcus faecium*、1例から *Enterococcus raffinosus* が分離された。推定感染地域は全例が国内であった。

17) 風しん

風しんは男3例、女1例の計4例の届出があり、前年

より減少した。年齢階級別では20歳代が3例、40歳代が1例であった。いずれも病型は検査診断例で、診断方法は血清IgM抗体の検出が3例、PCR法による病原体遺伝子の検出が1例であった。予防接種歴は無し1例、不明3例で、推定感染地域は国内が2例、国外が2例であった。

18) 麻しん

麻しんは女8例の届出があった。年齢階級別では20歳代の3例が最も多く、次いで10歳未満が2例、10歳代、30歳代及び60歳代が各1例であった。病型は検査診断例が4例、修飾麻しん(検査診断例)及び臨床診断例が各2例で、検査診断例の診断方法は、PCR法による病原体遺伝子の検出が2例、血清IgM抗体の検出及びPCR法による病原体遺伝子の検出が1例、血清IgM抗体の検出及びペア血清での抗体価の有意上昇が1例であった。予防接種の接種歴は1回目接種歴有りが3例、無しが3例、不明が2例で、2回目接種歴有りは1例であった。推定感染経路では2例に麻しん患者との接触が確認された。推定感染地域は国内が6例、不明が2例であった。なお、PCR法で病原体遺伝子が確認された3例のうち2例は海外での感染が疑われた麻しん患者との接触歴、1例は海外渡航歴を認めた症例であった。

19) 薬剤耐性アシネトバクター感染症

薬剤耐性アシネトバクター感染症は男5例、女2例の計7例の届出があり、前年より増加した。症例は10歳代から80歳代に分布した。診断方法は、血液からの分離・同定による病原体の検出が3例、喀痰からの検出が2例、腹水が1例で、1例は血液及び喀痰からの検出であった。感染原因・感染経路は、1例は海外での受診及び入院歴があり、治療のため帰国し届出に至った。残りの6例には、国内医療機関における加療行為があり、海外渡航歴は認められなかった。

(4) 獣医師が届出を行う感染症

獣医師が届出を行うエボラ出血熱(サル)、マールブルグ病(サル)、ペスト(プレーリードッグ)、重症急性呼吸器症候群(イタチアナグマ・タヌキ・ハクビシン)、細菌性赤痢(サル)、ウエストナイル熱(鳥類)、エキノコックス症(犬)、結核(サル)、鳥インフルエンザH5N1又はH7N9(鳥類)、中東呼吸器症候群(ヒトコブラクダ)の10疾患の届出はなかった。

2. 定点把握対象疾患の発生状況

五類感染症定点把握対象疾患の週単位報告の週別報告数、定点当たり報告数を表3-1、2に示した。また、月単位報告の月別報告数、定点当たり報告数を表4に、性年齢階級別報告数を表5に示した。

(1) 内科・小児科定点把握対象疾患の動向

1) インフルエンザ

2016年の第1週～52週の累積報告患者総数は96,030例、定点当たり報告総数は385.66で前年と比べ大きく増加し

表 3-1 定点把握対象疾患の推移・患者数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告)

年・週	月/日(週開始日)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎	インフルエンザ(入院)
16・1	01/04	534	107	92	385	1,572	232	5	144	53	1	3	244	-	41	-	-	12	2	2	4
16・2	01/11	1,204	85	50	399	1,734	119	10	166	73	2	3	160	1	29	2	1	10	1	-	4
16・3	01/18	3,188	65	54	498	1,436	102	8	127	69	2	4	119	1	26	-	-	4	-	1	5
16・4	01/25	7,607	58	55	634	1,591	81	9	134	73	1	1	153	-	18	-	-	1	-	-	15
16・5	02/01	11,880	27	49	475	1,356	90	2	107	63	-	1	146	2	23	-	-	5	1	1	29
16・6	02/08	12,332	23	31	484	1,186	73	6	71	59	-	1	137	-	17	-	-	4	3	-	24
16・7	02/15	10,311	25	39	540	1,148	94	3	68	52	1	-	140	1	28	-	-	5	1	1	22
16・8	02/22	9,361	9	49	558	925	80	5	62	50	-	4	140	2	26	-	-	7	1	-	18
16・9	02/29	8,593	14	37	522	885	82	3	41	61	-	1	167	-	15	-	-	4	-	1	31
16・10	03/07	6,914	13	37	523	951	69	6	54	65	1	3	122	1	28	-	-	7	-	4	18
16・11	03/14	4,603	11	45	504	842	95	4	52	65	-	3	157	1	25	-	-	4	-	-	6
16・12	03/21	2,802	9	27	355	643	92	4	33	57	1	5	159	1	24	-	-	5	-	3	7
16・13	03/28	2,069	6	20	340	660	95	6	42	90	1	1	159	1	13	-	-	7	1	2	6
16・14	04/04	1,206	9	30	322	697	90	4	32	74	2	2	152	1	22	-	1	2	-	2	8
16・15	04/11	779	11	43	354	694	58	5	33	90	2	4	132	1	14	-	-	4	-	4	5
16・16	04/18	787	6	54	510	998	69	7	51	112	1	2	132	-	16	-	1	3	-	1	4
16・17	04/25	353	6	41	463	870	70	9	38	108	3	7	156	1	18	1	-	1	1	3	1
16・18	05/02	107	6	52	347	691	80	6	35	77	1	3	147	3	11	-	1	-	-	1	-
16・19	05/09	66	9	97	492	982	112	8	31	117	4	5	206	2	37	-	-	3	-	5	1
16・20	05/16	27	6	79	550	1,023	96	8	22	118	2	11	218	3	25	-	-	2	-	4	1
16・21	05/23	28	7	123	566	1,102	116	15	29	139	1	14	193	2	35	-	1	6	-	2	-
16・22	05/30	14	6	142	613	999	103	18	33	148	3	31	247	-	20	-	1	3	-	1	-
16・23	06/06	14	8	138	742	1,183	90	41	35	120	5	43	219	1	25	-	2	8	-	3	-
16・24	06/13	11	5	160	588	1,131	86	37	36	121	2	78	261	-	31	-	1	9	-	-	-
16・25	06/20	2	10	146	581	984	101	61	19	115	-	154	229	1	28	-	2	5	-	1	-
16・26	06/27	3	12	135	561	994	98	78	38	126	2	269	238	4	29	-	1	6	1	1	-
16・27	07/04	2	11	121	557	901	95	122	46	97	5	551	294	2	28	-	2	10	-	-	-
16・28	07/11	4	14	91	493	831	97	160	22	97	1	923	233	1	41	-	-	6	-	-	-
16・29	07/18	3	31	65	310	643	79	133	27	82	3	951	242	-	32	1	1	5	1	-	-
16・30	07/25	4	31	87	303	696	85	154	22	105	4	1,146	230	-	24	-	1	7	-	-	-
16・31	08/01	5	49	51	296	606	71	147	29	65	1	926	210	-	17	-	2	5	-	-	1
16・32	08/08	-	34	26	157	434	42	102	13	53	1	585	141	-	20	-	-	12	1	-	-
16・33	08/15	-	38	40	161	376	59	74	4	58	-	257	155	-	8	-	1	9	2	-	-
16・34	08/22	3	59	32	178	513	46	92	10	86	1	284	164	1	23	-	-	10	1	-	-
16・35	08/29	8	95	42	188	582	32	114	30	81	1	241	133	2	37	-	2	12	-	-	-
16・36	09/05	5	165	69	252	702	37	156	25	94	1	249	161	-	37	-	-	3	1	1	-
16・37	09/12	5	254	60	302	632	59	158	16	87	-	231	153	-	40	1	-	9	-	1	-
16・38	09/19	10	243	23	232	492	37	135	6	75	2	109	134	1	21	-	2	5	1	-	-
16・39	09/26	33	309	40	260	620	54	239	17	85	3	159	159	1	35	-	-	8	1	-	-
16・40	10/03	39	445	31	241	634	84	317	11	97	1	141	154	1	26	-	-	24	2	-	-
16・41	10/10	35	341	25	177	505	47	253	6	64	1	78	104	1	19	-	2	28	3	1	-
16・42	10/17	52	310	27	295	639	66	189	16	86	-	73	222	-	25	-	-	28	-	2	1
16・43	10/24	142	263	29	317	832	85	181	10	74	2	31	165	-	49	-	-	29	-	1	1
16・44	10/31	165	161	29	332	999	54	125	8	71	3	30	154	-	20	-	2	18	1	-	-
16・45	11/07	283	114	33	417	1,530	114	98	7	80	-	15	189	-	24	1	3	24	-	-	-
16・46	11/14	423	73	27	414	2,568	116	99	15	93	-	6	132	-	25	-	1	16	1	3	2
16・47	11/21	545	58	40	415	3,045	128	112	21	79	-	10	164	-	22	-	-	15	3	1	1
16・48	11/28	685	99	57	543	4,276	168	78	26	104	-	6	194	1	33	1	1	18	1	1	2
16・49	12/05	977	62	67	553	4,973	120	71	15	63	1	7	147	-	23	-	-	17	-	-	2
16・50	12/12	1,766	66	50	557	5,066	176	49	21	54	-	6	156	3	26	-	1	14	-	-	4
16・51	12/19	3,330	36	56	459	3,708	128	31	18	67	1	6	141	1	19	-	1	6	-	1	14
16・52	12/26	2,711	45	32	273	1,267	109	13	9	33	1	1	62	1	17	-	1	8	-	-	20
2016年計		96,030	3,959	3,075	21,588	65,347	4,661	3,770	1,983	4,325	71	7,675	8,926	46	1,315	7	35	473	31	55	257
2015年計		42,038	4,585	4,386	23,150	55,037	5,033	23,462	8,714	4,818	93	4,572	6,382	44	1,642	9	46	270	22	114	146
2016年/2015年比		2.3	0.9	0.7	0.9	1.2	0.9	0.2	0.2	0.9	0.8	1.7	1.4	1.0	0.8	0.8	0.8	1.8	1.4	0.5	1.8

(-:0)

た。定点当たり報告数は年当初から第5週まで急激に増加し、第6週(2/8~14)に最大値49.13を観測した。また、第51週(12/19~25)の定点当たり報告数は13.37で、年末から2016-2017シーズンの流行が観測された。年齢階級別では、10歳未満が全体の55.4%であった。

(2)小児科定点把握対象疾患の動向

1)RSウイルス感染症

2016年第1週~52週の累積報告患者数は3,959例、定点当たり報告患者総数は25.06で、前年より僅かに減少し

た。前年冬季の流行は1月まで続いた。2016年の流行は8月に始まり、ピークは第40週(10/3~9)に観測された。定点当たり報告数の最大値2.85は、過去5年と比較すると最も高かった。年齢階級別では、1歳が最も多く1歳以下が全体の77.9%を占めた。

2)咽頭結膜熱

2016年第1週~52週の累積報告患者数は3,075例、定点当たり報告患者総数は19.46で、前年より減少した。夏季流行は第24週(6/13~19)の定点当たり報告数0.99を最

表 3-2 定点把握対象疾患の推移・定点当たり報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告)

年・週	月/日(週開始日)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	インフルエンザ(入院)
16-1	01/04	2.13	0.68	0.59	2.45	10.01	1.48	0.03	0.92	0.34	0.01	0.02	1.55	-	1.00	-	-	1.20	0.20	0.20	0.40
16-2	01/11	4.76	0.53	0.31	2.51	10.91	0.75	0.06	1.04	0.46	0.01	0.02	1.01	0.03	0.73	0.20	0.10	1.00	0.10	-	0.40
16-3	01/18	12.70	0.41	0.34	3.13	9.03	0.64	0.05	0.80	0.43	0.01	0.03	0.75	0.02	0.63	-	-	0.40	-	0.10	0.50
16-4	01/25	30.19	0.36	0.34	3.96	9.94	0.51	0.06	0.84	0.46	0.01	0.01	0.96	-	0.44	-	-	0.10	-	-	1.50
16-5	02/01	47.52	0.17	0.32	3.06	8.75	0.58	0.01	0.69	0.41	-	0.01	0.94	0.05	0.56	-	-	0.50	0.10	0.10	2.90
16-6	02/08	49.13	0.14	0.19	3.04	7.46	0.46	0.04	0.45	0.37	-	0.01	0.86	-	0.41	-	-	0.40	0.30	-	2.40
16-7	02/15	40.59	0.16	0.24	3.35	7.13	0.58	0.02	0.42	0.32	0.01	-	0.87	0.02	0.68	-	-	0.50	0.10	0.10	2.20
16-8	02/22	37.44	0.06	0.31	3.49	5.78	0.50	0.03	0.39	0.31	-	0.03	0.88	0.05	0.63	-	-	0.70	0.10	-	1.80
16-9	02/29	34.24	0.09	0.23	3.30	5.60	0.52	0.02	0.26	0.39	-	0.01	1.06	-	0.37	-	-	0.40	-	0.10	3.10
16-10	03/07	27.44	0.08	0.23	3.25	5.91	0.43	0.04	0.34	0.40	0.01	0.02	0.76	0.02	0.68	-	-	0.70	-	0.40	1.80
16-11	03/14	18.34	0.07	0.28	3.17	5.30	0.60	0.03	0.33	0.41	-	0.02	0.99	0.03	0.63	-	-	0.40	-	-	0.60
16-12	03/21	11.08	0.06	0.17	2.22	4.02	0.58	0.03	0.21	0.36	0.01	0.03	0.99	0.02	0.59	-	-	0.50	-	0.30	0.70
16-13	03/28	8.28	0.04	0.13	2.15	4.18	0.60	0.04	0.27	0.57	0.01	0.01	1.01	0.03	0.33	-	-	0.70	0.10	0.20	0.60
16-14	04/04	4.84	0.06	0.19	2.05	4.44	0.57	0.03	0.20	0.47	0.01	0.01	0.97	0.02	0.54	-	0.10	0.20	-	0.20	0.80
16-15	04/11	3.09	0.07	0.27	2.21	4.34	0.36	0.03	0.21	0.56	0.01	0.03	0.83	0.02	0.34	-	-	0.40	-	0.40	0.50
16-16	04/18	3.12	0.04	0.34	3.19	6.24	0.43	0.04	0.32	0.70	0.01	0.01	0.83	-	0.39	-	0.10	0.30	-	0.10	0.40
16-17	04/25	1.42	0.04	0.26	2.95	5.54	0.45	0.06	0.24	0.69	0.02	0.04	0.99	0.03	0.45	0.10	-	0.10	0.10	0.30	0.10
16-18	05/02	0.43	0.04	0.33	2.22	4.43	0.51	0.04	0.22	0.49	0.01	0.02	0.94	0.07	0.27	-	0.10	-	-	0.10	-
16-19	05/09	0.26	0.06	0.61	3.09	6.18	0.70	0.05	0.19	0.74	0.03	0.03	1.30	0.05	0.90	-	-	0.30	-	0.50	0.10
16-20	05/16	0.11	0.04	0.50	3.46	6.43	0.60	0.05	0.14	0.74	0.01	0.07	1.37	0.08	0.63	-	-	0.20	-	0.40	0.10
16-21	05/23	0.11	0.04	0.77	3.56	6.93	0.73	0.09	0.18	0.87	0.01	0.09	1.21	0.05	0.85	-	0.10	0.60	-	0.20	-
16-22	05/30	0.06	0.04	0.89	3.86	6.28	0.65	0.11	0.21	0.93	0.02	0.19	1.55	-	0.50	-	0.10	0.30	-	0.10	-
16-23	06/06	0.06	0.05	0.86	4.61	7.35	0.56	0.25	0.22	0.75	0.03	0.27	1.36	0.02	0.61	-	0.20	0.80	-	0.30	-
16-24	06/13	0.04	0.03	0.99	3.65	7.02	0.53	0.23	0.22	0.75	0.01	0.48	1.62	-	0.78	-	0.10	0.90	-	-	-
16-25	06/20	0.01	0.06	0.92	3.65	6.19	0.64	0.38	0.12	0.72	-	0.97	1.44	0.02	0.68	-	0.20	0.50	-	0.10	-
16-26	06/27	0.01	0.08	0.85	3.53	6.25	0.62	0.49	0.24	0.79	0.01	1.69	1.50	0.10	0.73	-	0.10	0.60	0.10	0.10	-
16-27	07/04	0.01	0.07	0.75	3.46	5.60	0.59	0.76	0.29	0.60	0.03	3.42	1.83	0.05	0.68	-	0.20	1.00	-	-	-
16-28	07/11	0.02	0.09	0.58	3.12	5.26	0.61	1.01	0.14	0.61	0.01	5.84	1.47	0.02	1.00	-	-	0.60	-	-	-
16-29	07/18	0.01	0.20	0.41	1.97	4.10	0.50	0.85	0.17	0.52	0.02	6.06	1.54	-	0.78	0.10	0.10	0.50	0.10	-	-
16-30	07/25	0.02	0.19	0.54	1.88	4.32	0.53	0.96	0.14	0.65	0.02	7.12	1.43	-	0.59	-	0.10	0.70	-	-	-
16-31	08/01	0.02	0.31	0.32	1.85	3.79	0.44	0.92	0.18	0.41	0.01	5.79	1.31	-	0.41	-	0.20	0.50	-	-	0.10
16-32	08/08	-	0.23	0.18	1.07	2.95	0.29	0.69	0.09	0.36	0.01	3.98	0.96	-	0.61	-	-	1.20	0.10	-	-
16-33	08/15	-	0.25	0.27	1.07	2.51	0.39	0.49	0.03	0.39	-	1.71	1.03	-	0.21	-	0.10	0.90	0.20	-	-
16-34	08/22	0.01	0.38	0.21	1.14	3.29	0.29	0.59	0.06	0.55	0.01	1.82	1.05	0.03	0.58	-	-	1.00	0.10	-	-
16-35	08/29	0.03	0.59	0.26	1.18	3.64	0.20	0.71	0.19	0.51	0.01	1.51	0.83	0.05	0.90	-	0.20	1.20	-	-	-
16-36	09/05	0.02	1.03	0.43	1.58	4.39	0.23	0.98	0.16	0.59	0.01	1.56	1.01	-	0.93	-	-	0.30	0.10	0.10	-
16-37	09/12	0.02	1.62	0.38	1.92	4.03	0.38	1.01	0.10	0.55	-	1.47	0.97	-	1.03	0.10	-	0.90	-	0.10	-
16-38	09/19	0.04	1.56	0.15	1.49	3.15	0.24	0.87	0.04	0.48	0.01	0.70	0.86	0.02	0.51	-	0.20	0.50	0.10	-	-
16-39	09/26	0.13	1.93	0.25	1.63	3.88	0.34	1.49	0.11	0.53	0.02	0.99	0.99	0.03	0.88	-	-	0.80	0.10	-	-
16-40	10/03	0.16	2.85	0.20	1.54	4.06	0.54	2.03	0.07	0.62	0.01	0.90	0.99	0.02	0.63	-	-	2.40	0.20	-	-
16-41	10/10	0.14	2.13	0.16	1.11	3.16	0.29	1.58	0.04	0.40	0.01	0.49	0.65	0.02	0.46	-	0.20	2.80	0.30	0.10	-
16-42	10/17	0.21	1.95	0.17	1.86	4.02	0.42	1.19	0.10	0.54	-	0.46	1.40	-	0.61	-	-	2.80	-	0.20	0.10
16-43	10/24	0.56	1.63	0.18	1.97	5.17	0.53	1.12	0.06	0.46	0.01	0.19	1.02	-	1.20	-	-	2.90	-	0.10	0.10
16-44	10/31	0.65	1.00	0.18	2.06	6.20	0.34	0.78	0.05	0.44	0.02	0.19	0.96	-	0.50	-	0.20	1.80	0.10	-	-
16-45	11/07	1.12	0.71	0.20	2.59	9.50	0.71	0.61	0.04	0.50	-	0.09	1.17	-	0.59	0.10	0.30	2.40	-	-	-
16-46	11/14	1.70	0.46	0.17	2.62	16.25	0.73	0.63	0.09	0.59	-	0.04	0.84	-	0.61	-	0.10	1.60	0.10	0.30	0.20
16-47	11/21	2.18	0.36	0.25	2.58	18.91	0.80	0.70	0.13	0.49	-	0.06	1.02	-	0.54	-	-	1.50	0.30	0.10	0.10
16-48	11/28	2.73	0.62	0.36	3.39	26.73	1.05	0.49	0.16	0.65	-	0.04	1.21	0.02	0.80	0.10	0.10	1.80	0.10	0.10	0.20
16-49	12/05	3.86	0.39	0.42	3.43	30.89	0.75	0.44	0.09	0.39	0.01	0.04	0.91	-	0.56	-	-	1.70	-	-	0.20
16-50	12/12	7.01	0.41	0.31	3.48	31.66	1.10	0.31	0.13	0.34	-	0.04	0.98	0.07	0.63	-	0.10	1.40	-	-	0.40
16-51	12/19	13.37	0.23	0.35	2.91	23.47	0.81	0.20	0.11	0.42	0.01	0.04	0.89	0.03	0.48	-	0.10	0.60	-	0.10	1.40
16-52	12/26	11.79	0.31	0.22	1.91	8.86	0.76	0.09	0.06	0.23	0.01	0.01	0.43	0.03	0.50	-	0.10	0.80	-	-	2.00
2016年計		385.66	25.06	19.46	136.63	413.59	29.50	23.86	12.55	27.37	0.45	48.58	56.49	1.15	32.88	0.70	3.50	47.30	3.10	5.50	25.70
2015年計		170.19	29.20	27.94	147.45	350.55	32.06	149.44	55.50	30.69	0.59	29.12	40.65	1.10	41.05	0.90	4.60	27.00	2.20	11.40	14.60
2016年/2015年比		2.3	0.9	0.7	0.9	1.2	0.9	0.2	0.2	0.9	0.8	1.7	1.4	1.0	0.8	0.8	0.8	1.8	1.4	0.5	1.8

※表中の定点当たり報告数は、小数第3位で四捨五入

(-:0)

大値として、5月から7月にかけて認められた。冬期の流行は、大きな流行が観察された前年に比べ小さかった。年齢階級別では、1歳が最も多く、1歳～4歳で全体の63.4%を占めた。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2016年第1週～52週の累積報告患者数は21,588例、定点当たり報告患者総数136.63で、前年より僅かに減少した。1月の定点当たり報告数は前年より多い状況であったが、その後は前年よりやや少ない水準で推移した。定点当たり報告数の最大値は第23週(6/6～12)の4.61であり、過去5年で最も高かった前年と同等であった。年齢階級別では、6歳が最も多く4歳～8歳で全体の59.2%を占めた。

4) 感染性胃腸炎

2016年第1週～52週の累積患者報告数は65,347例、

定点当たり報告患者総数は413.59で、前年より増加した。定点当たり報告数は、年当初から8月にかけて緩やかに減少した。2016年の流行は11月に始まり、ピークは第50週(12/12～18)の31.66で、過去5年で最も大きかった2013年に次いだ。年齢階級別では、1歳が最も多く、1歳～5歳で全体の50.7%を占めた。

5) 水痘

2016年第1週～52週の累積報告患者数は4,661例、定点当たり報告患者総数29.50で、前年より僅かに減少した。春から夏にかけての流行及び冬季流行は前年同様に小規模で、定点当たり報告数の最大値は第1週(1/4～10)の1.48であった。年齢階級別では、5歳が最も多く、次いで6歳、7歳の順であった。

6) 手足口病

2016年第1週～52週の累積報告患者数は3,770例、定

表4 定点把握対象疾患の推移(基幹定点・性感染症定点 月単位報告)

月別	メチリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		性器クラミジア感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	13	1.30	3	0.30	-	-	92	1.61	42	0.74	26	0.46	44	0.77
2月	9	0.90	1	0.10	-	-	96	1.68	48	0.84	17	0.30	37	0.65
3月	11	1.10	-	-	-	-	104	1.79	38	0.66	22	0.38	27	0.47
4月	17	1.70	-	-	-	-	111	1.91	37	0.64	15	0.26	32	0.55
5月	6	0.60	-	-	-	-	128	2.25	52	0.91	20	0.35	32	0.56
6月	13	1.30	-	-	-	-	139	2.44	40	0.70	25	0.44	34	0.60
7月	5	0.50	-	-	-	-	132	2.28	43	0.74	35	0.60	37	0.64
8月	11	1.10	-	-	2	0.20	141	2.47	46	0.81	25	0.44	46	0.81
9月	15	1.50	1	0.10	1	0.10	121	2.09	39	0.67	26	0.45	42	0.72
10月	8	0.80	-	-	-	-	101	1.74	33	0.57	17	0.29	27	0.47
11月	9	0.90	2	0.20	-	-	104	1.79	32	0.55	18	0.31	30	0.52
12月	15	1.50	-	-	-	-	116	2.07	37	0.66	13	0.23	35	0.63
2016年計	132	13.20	7	0.70	3	0.30	1,385	24.13	487	8.48	259	4.51	423	7.37
2015年計	85	8.50	7	0.70	3	0.30	1,440	25.17	427	7.47	240	4.20	484	8.46
2016年/2015年比	1.6	1.6	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1	1.1	1.1	1.1	0.9	0.9

(-:0)

表5 性年齢階級別報告数(基幹定点・性感染症定点 月単位報告)

年齢階級	メチリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		性器クラミジア感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0歳	8	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1-4歳	3	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5-9歳	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10-14歳	3	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
15-19歳	1	-	-	-	-	-	38	100	5	11	-	10	18	10
20-24歳	1	-	-	-	-	-	121	274	14	45	10	42	69	13
25-29歳	1	-	-	-	-	-	121	174	22	61	18	28	55	11
30-34歳	-	2	-	-	-	-	91	109	24	41	14	21	66	7
35-39歳	-	3	-	-	-	-	72	62	24	34	15	22	40	13
40-44歳	1	-	-	-	-	-	59	42	21	32	17	15	42	4
45-49歳	-	-	-	-	-	-	41	20	13	22	15	3	37	2
50-54歳	3	2	-	-	-	-	18	17	6	17	14	2	13	7
55-59歳	-	-	-	1	-	-	9	5	8	12	3	1	8	2
60-64歳	1	3	-	1	-	-	8	-	7	11	2	-	3	1
65-69歳	6	5	-	-	-	-	1	-	9	12	2	2	2	-
70歳~	38	32	1	3	-	3	2	-	7	29	-	3	-	-
合計	67	65	2	5	-	3	581	804	160	327	110	149	353	70
男女比	1.03	1.00	0.40	1.00	-	1.00	0.72	1.00	0.49	1.00	0.74	1.00	5.04	1.00

(-:0)

点当たり報告患者総数 23.86 で、前年と比べ大きく減少した。夏季流行のピークは、小規模流行年であった一昨年(2014年)を下回り、夏季報告数の明らかな増加は観察されなかった。また、定点当たり報告数の最大値は第40週(10/3~9)の2.03であった。年齢階級別では、1歳が最も多く、1歳~4歳で全体の71.7%を占めた。

7) 伝染性紅斑

2016年第1週~52週の累積報告患者数は1,983例、定点当たり報告患者総数12.55で、前年と比べ大きく減少した。一昨年(2014年)から始まった流行は終盤を迎え、報告数の減少は3月まで続いた。その後の報告数は低い水準で推移した。定点当たり報告数の最大値1.04は第2週(1/11~17)に記録された。年齢階級別では、4歳が最も多く、3歳~8歳で全体の74.7%を占めた。

8) 突発性発しん

2016年第1週~52週の累積報告患者数は4,325例、定点当たり報告患者総数は27.37で、前年より僅かに減少した。例年同様に年間を通して常に報告はあり、定点当たり報告数の最大値0.93は第22週(5/30~6/5)に記録された。年齢階級別では、1歳が最も多く、1歳以下で全体の89.2%を占めた。

9) 百日咳

2016年第1週~52週の累積報告患者数は71例、定点当たり報告患者総数0.45は前年より減少した。前年と同様に年間を通して際立った報告数の増加は認められず、定点当たり報告数の最大値0.03は、5月から7月にかけて計3回観察された。年齢階級別では、10歳未満では6歳を除く階級で報告があり6カ月未満の14.1%が最も多い。

10) ヘルパンギーナ

2016年第1週~52週の累積報告患者数は7,675例、定

点当たり報告患者総数 48.58 は前年と比べ大きく増加した。例年同様に夏季に一峰性の流行を認めた。定点当たり報告数の最大値は第30週(7/25~31)の7.12で、過去5年では2012年に次いで高かった。年齢階級別では、1歳が最も多く1歳~4歳で全体の73.9%を占めた。

11) 流行性耳下腺炎

2016年第1週~52週の累積報告患者数は8,926例、定点当たり報告患者総数56.49は前年より大きく増加した。前年から増加傾向にあった報告数は、多い状況が続き流行年となった。また、定点当たり報告数の最大値は、第27週(7/4~10)の1.83であった。年齢階級別では、5歳が最も多く4歳~8歳で全体の63.8%を占めた。

(3)眼科定点把握対象疾患の動向

1) 急性出血性結膜炎

2016年第1週~52週の累積報告患者数は46例、定点当たり報告患者総数1.15は前年と同水準であった。年間を通して少数の報告があり、定点当たり報告数の最大値は第26週(6/27~7/3)の0.10であった。年齢階級別では、20歳以上が30例で全体の65.2%を占めた。

2) 流行性角結膜炎

2016年第1週~52週の累積報告患者数は1,315例、定点当たり報告患者総数32.88は前年と比べ減少した。年間を通して報告はあり、5月から10月にかけてはやや報告数が多い状況が続いた。定点当たり報告数の最大値は、第43週(10/24~30)の1.20であった。年齢階級別では、全ての階級から報告があり、20歳以上では30歳代及び40歳代が多い。

(4)基幹定点把握対象疾患の動向

1) 細菌性髄膜炎

2016年第1週~52週の累積報告患者数は7例、定点当たり報告患者総数0.70は前年を下回った。報告は散発的で、定点当たり報告数の最大値は第2週(1/11~17)の0.20であった。患者の年齢階級は、70歳以上が4例、30~34歳が2例、55~59歳が1例であった。

2) 無菌性髄膜炎

2016年第1週~52週の累積報告患者数は35例、定点当たり報告患者総数3.50で、前年を下回った。際立った流行は観察されなかったが、4月以降は散発的な発生が相次いだ。定点当たり報告数の最大値は第45週(11/7~13)の0.30であった。年齢階級別では、10歳未満が19例で全体の54.3%を占めた。

3) マイコプラズマ肺炎

2016年の第1週~52週の累積報告患者数は473例、定点当たり報告患者総数47.30は前年より大きく増加した。報告数は10月から12月にかけて多い状況が続いた。定点当たり報告数の最大値は、第43週(10/24~30)の2.90であった。年齢階級別では、0歳を除く階級で報告があったが、5~9歳、10~14歳、1~4歳の順で多く、この3階級で全体の77.6%を占めた。

4) クラミジア肺炎(オウム病を除く)

2016年第1週~52週の累積報告患者数は31例、定点当たり報告患者総数3.10は前年より増加した。患者の報告数に集積性は認められず、年間を通して散発的であった。年齢階級別では、5~9歳及び10~14歳が各9例と多く、全体の58.1%を占めた。

5) 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

2013年第42週から基幹定点報告対象に加わり、2016年第1週~52週の累積報告患者数は55例、定点当たり報告患者総数5.50で、前年と比べ大きく減少した。定点当たり報告数は3月から6月まで多い状況が続いた。定点当たり報告数の最大値は、第19週(5/9~15)の0.50であった。年齢階級別では、1~4歳が最も多く、10歳未満が全体の89.1%を占めた。

6) インフルエンザ(入院)

2016年第1週~52週の累積報告患者数は257例、定点当たり報告患者総数25.70は前年より大きく増加した。定点当たり報告数は1月~4月及び12月に多い状況が観察され、最大値は第9週(2/29~3/6)の3.10であった。年齢階級別では、70歳以上の82例が最も多く、次いで1~4歳の66例、5~9歳の33例の順であった。

7) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2016年1月~12月の累積報告患者数は132例、定点当たり報告患者総数13.20で、2008年以降減少傾向にあったが、前年より増加した。年間を通して患者報告はあり、定点当たり報告数の最大値は4月の1.70であった。年齢階級別では、男女とも70歳以上が最も多く、全体の53.0%を占めた。

8) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2016年1月~12月の累積報告患者数は7例、定点当たり報告患者総数0.70は前年と同値であった。報告は1月に3例、11月に2例、2月及び9月に各1例であった。年齢階級別では、70歳以上が4例、1~4歳、55~59歳及び60~64歳が各1例であった。

9) 薬剤耐性緑膿菌感染症

2016年1月~12月の累積報告患者数は3例、定点当たり報告患者総数0.30は前年と同値であった。8月に2例、9月に1例の報告があり、年齢階級別では、全て70歳以上であった。

(5)性感染症定点把握対象疾患の動向

1) 性器クラミジア感染症

2016年1月~12月の累積報告患者数は、男581例、女804例の計1,385例で、定点当たり報告患者総数24.13は前年と同水準であった。定点当たり報告数の最大値は8月の定点当たり2.47であった。最も報告数が多い年齢階級は、男が20~24歳及び25~29歳、女が20~24歳で、前年と比べ大きな変化はなかった。

2) 性器ヘルペスウイルス感染症

2016年1月~12月の累積報告患者数は、男160例、女327例の計487例、定点当たり報告患者総数8.48は前年より僅かに増加した。定点当たり報告数の最大値は5月の定

点当たり 0.91 であった。最も報告数が多い年齢階級は、男が30～34歳及び35～39歳、女が25～29歳であった。

3) 尖圭コンジローマ

2016年1月～12月の累積報告患者数は男110例、女149例の計259例、定点当たり報告患者総数4.51は前年より僅かに増加した。定点当たり報告数の最大値は7月の定点当たり0.60であった。最も報告数が多い年齢階級は、男が25～29歳、女が20～24歳であった。

4) 淋菌感染症

2016年1月～12月の累積報告患者数は男353例、女70例の計423例、定点当たり報告患者総数7.37は前年より僅かに減少した。定点当たり報告数の最大値は8月の定点当たり0.81であった。最も報告数が多い年齢階級は、男が20～24歳、女が20～24歳及び35～39歳であった。

(6) 感染症法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

2016年埼玉県における摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く)若しくは発熱及び発しん又は水疱(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く)の二つの症候群の届出はなかった。

まとめ

2016年の感染症発生動向調査に基づく患者届出について、各疾患別にその動向をまとめた。全数把握対象疾患の二類感染症では、結核が1,383例の届出があった。結核患者数は938例で、緩やかな減少傾向にあるが、未だ900例を下回っていない。

三類感染症で輸入感染症でもある細菌性赤痢及び腸チフスでは、海外での感染が疑われたものは前者が7例、後者が全例の2例であった。細菌性赤痢の国内感染例は、近年断続的に報告されている。腸管出血性大腸菌感染症は前年の届出数を僅かに上回った。届出は6月から増加し、11月まで多い状況が続いた。

四類感染症は、E型肝炎、A型肝炎、チクングニア熱、つつが虫病、デング熱、レジオネラ症の計6疾患の届出があった。デング熱は全て海外感染例で、国内での感染が疑われた事例はなかった。レジオネラ症の届出数は前年と同水準で、感染地域が共通であると疑われた事例は確認されなかった。2016年から新たに対象疾患に追加されたジカウイルス感染症の届出はなかった。

五類感染症の全数把握対象疾患は、アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、急性脳炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、ジアルジア症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘(入院例)、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、

バンコマイシン耐性腸球菌感染症、風しん、麻しん、薬剤耐性アシネトバクター感染症の計19疾患の届出があった。近年、増加の傾向が著しい梅毒^{3,4)}は、男では早期顕症梅毒(Ⅱ期)及び晩期顕症梅毒、女では早期顕症梅毒(Ⅰ期)及び晩期顕症梅毒の割合が前年に比べ増加した。感染経路に関して、異性間性的接触は男が63.8%、女が70.3%を占めた。また、母子感染(胎内)による先天梅毒1例が報告された。また、2015年に日本で排除状態にあると認定された麻しん⁵⁾では、海外渡航や海外で感染した麻しん患者との接触を認めた症例から麻しんウイルスが検出された。

定点把握対象疾患では、インフルエンザ定点から報告されるインフルエンザの報告患者数は前年より大きく増加した。小児科定点報告疾患では、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎の報告患者数が前年を上回った。眼科定点報告疾患では、急性出血性結膜炎の報告患者数が僅かに前年を上回った。基幹定点週単位報告疾患では、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎、インフルエンザ(入院)の報告患者数が前年を上回った。月単位報告疾患ではメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が前年の報告数を上回った。性感染症定点把握対象疾患では、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマの報告数が前年に比べ増加した。

文献

- 1) 厚生労働省健康局結核感染症課：感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について(一部改正)(健感発0212第1号)、平成28年2月12日
- 2) 厚生労働省 感染症法における感染症の分類、<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000132262.pdf>
- 3) 国立感染症研究所：日本の梅毒症例の動向について(2017年7月5日現在)。
- 4) 国立感染症研究所：注目すべき感染症<梅毒2016年第1～47週までの疫学的特徴>、Infectious disease weekly report Japan 第18巻第48号p8-9.
- 5) WHO News release: Brunei Darussalam, Cambodia, Japan verified as achieving measles elimination, <http://www.wpro.who.int/mediacentre/releases/2015/20150327/en/>